



大阪市立大学
工学部同窓会

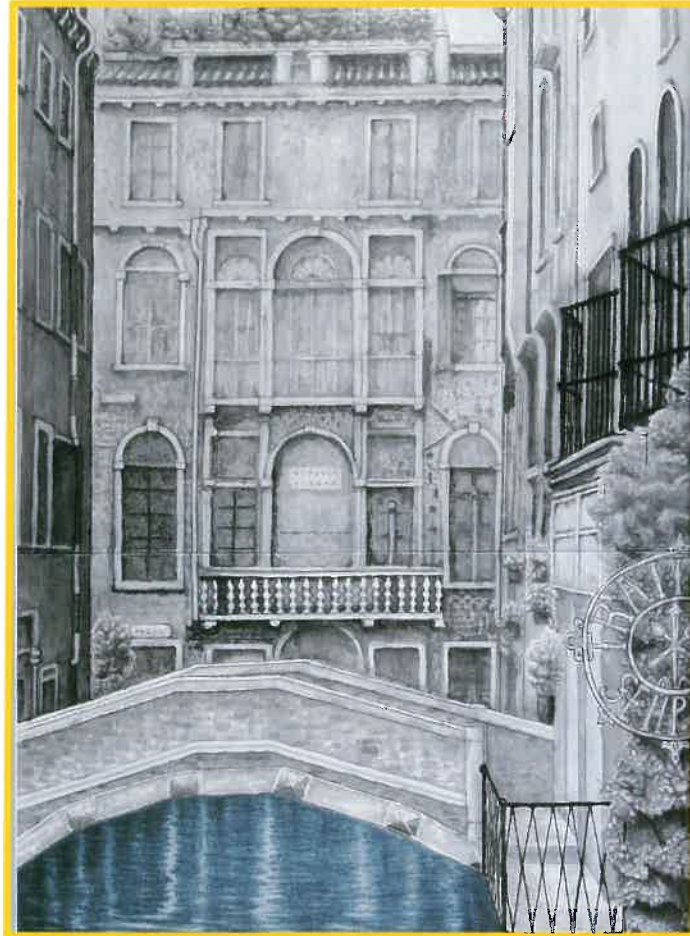
同窓会だより

大阪市住吉区杉本 3-3-138

TEL 06 (6607) 8 3 7 3

FAX 06 (6605) 2 7 6 9

発行人 田守 芳勝



建部 渉作

《 目 次 》

表紙絵題名「小運河（ベニスの早朝の運河）」… 1	学科の近況・会員短信（バイオ工学科） ……15
宮本会長・大嶋名誉会長の挨拶 …… 2	〃 （知的材料工学科） ……16
設立50周年記念募金の報告と御礼 …… 3	〃 （環境都市工学科） ……16
大阪市立大学の近況 …… 6	都島工専OBの回想 ……17
定年恩師の寄稿 …… 7	平成23年工学部卒業生名簿 ……18
学科の近況・会員短信（機械工学科） …… 7	〃 工学研究科修了生名簿 ……19
〃 （電気工学科） …… 8	〃 工学部入学生名簿 ……20
〃 （応用化学科） ……10	〃 工学研究科入学生名簿 ……21
〃 （建築学科） ……11	新振替口座開設のご連絡とお願い ……21
〃 （都市基盤工学科） ……12	工学部同窓会事務局年報 ……22
〃 （応用物理学科） ……13	平成24年評議員会案内・工学部電話番号・後記 ……23
〃 （情報工学科） ……14	平成24年“工学部同窓会設立50周年記念行事”の案内 ……24

ご挨拶

工学部同窓会会長 宮本 万功



「工学部同窓会だより」の発行にあたり、ご挨拶を申し上げます。

平成23年、わが国、日本は、3月11日の東日本大震災、津波、福島第一原子力発電所の事故、9月3日の台風12号、9月21日～台風15号などの激甚災害に見舞われ、多くの人命が失われました。私は

未曾有の被害が発生した現実と接し、人間の無力さを思い知らされ、人生観さえ大きく変わった感があります。未だに安否の判明していない被災者の方々が多く居られます。お亡くなりになった方々のご冥福を心よりお祈りし、一日も早い復旧・復興を祈念するものです。

1960年11月に先人達の熱い思いで設立された当同窓会の50周年を記念して皆様にご協力をお願いしました募金は、本誌でご報告をしていますが、お陰さまで、「予約型奨学金制度の発足」、会員相互と学校からの情報交換への寄与を目指した「同窓会のITインフラの充実」、「記念誌発行の準備」などの50周年記念事業に活用させて頂いています。皆様のご支援に改めて御礼を申し上げます。

その他、工学部同窓会では、評議員会と年に四回の理事役員会の議論を踏まえ、「工学部及び全市大行事・事業への協力」、「後期博士課程進学者の修学援助」、「工学部の学生を対象とした工場見学会」などを実施しています。

最近の同窓会に関連する変化をご紹介しますと、公立大学法人大阪市立大学では同窓会の統一によって大学への支援を強めるために、同窓会に対する窓口として、「大学サポーター事務局」を新設されました。今後、工学部同窓会も出来るだけ早く統一同窓会に向けて検討する必要があると考えられます。また、当同窓会の会費も、終身会費だけでは、経常経費さえもまかない難くなってきています。

このような状況ですので、今回の第27号「同窓会だより」21ページに記載のゆうちょ銀行の振替口座を新しく開設させて頂きました。

平成22年の「工学部同窓会だより」は連絡可能な約1万名の皆様を送付させて頂きましたが、約200名の方の宛先が不明で返送されてきました。この平成23年の「同窓会だより」をお受取りの皆様には、「同窓会だより」を受取ったか？などと連絡を取り合っていただき、受取られていない同級生の連絡先などを事務局までお知らせ頂ければと願っています。

(機械：昭和43年卒)

表紙絵作者の略歴

1937年：岡山県生まれ

1962年：大阪市立大学工学研究科電気工学専攻修了

2001年：大阪市立大学工学部教授を定年退職

第56回大美展の花朝賞および平成23年度泉佐野市民展の市長賞を受賞。原画は180×71の水墨画。

工学部・工学研究科の近況

名誉会長 大嶋 寛



今年は、遅くまで暑い日が続きましたが、同窓生の皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。

工学部が機械工学科、電子・物理工学科、情報工学科、化学バイオ工学科、建築学科、都市学科の6学科体制になって3年目を迎えておりますが、お陰様で順調に推移しています。

今年度の入学生は、学部生287名、大学院生（前期博士課程）190名、（後期博士課程）18名でした。学部生の中には建築学科が優れた学生を受け入れる新しい試みとして実施した指定校推薦の6名も含まれています。高校生が、大阪市立大学を知る良い機会となっているオープンキャンパス（例年8月実施）には、工学部だけで2,940名の参加があり、前年に比較して21.3%の参加者数増となっています。前期博士課程（修士）に於いては、近年、国立大学でさえ定員割れを起こしているところもある中で、本学は適度な競争力を維持しています。就職も、お陰様で、学部生、大学院生ともにはほぼ100%の実績です。

研究に目を向けますと、教員個々人の研究とは別に、6つのプロジェクト研究を行っています。また、工学研究科の外部資金は、受託研究（民間・公的）、共同研究（民間）、公的補助金、奨励寄附金の合計が国からの科学研究費補助金の約2倍となっており、総額3.9億円で前年比20%増となっています。しかし、これはさらに大きくする必要があります。工学部同窓会で進めていただいている「インターネットによる同窓生と工学部・工学研究科との交流」などを通じて、新たな連携事業などを計画していきたいとも考えています。また、工学研究科発ベンチャー企業は、数こそ少ないものの、成功しつつある例もあり、今後の活躍を期待するところです。

さて、この度の東北沖大地震と津波はあまりにも大きな被害をもたらしましたが、石巻市には大学として、今までに3度の学生ボランティアを派遣しています。それには工学研究科の大学院生が率先して参加してくれました。学間に励み、研究を良くし、社会に貢献すべく教員、学生ともに励んでいるところですが、本学工学研究科がボランティア精神にも富んでいるということは、人材育成を本務の大きな柱とする大学にあっては、心晴れやかに思えるところです。また、OB教授の支援も受けています。工学部には、平成22年度に下肢に障がいがある学生が入学しています。理学部や学生支援課の支援も受けながら、学間に励んでいるようですが、学生実験科目には安全を確保する補助者が必要と考え、専門性も考えてOB教授をお願いしましたところ快く引き受けていただきました。さらに、工学部中庭や外回りの雑草刈りをお申し出いただいて、実際にして下さったOB教授も2名おられます。誠に申し訳ないことですが、一方では、そのような応援をしていただけるということが本学工学研究科のすばらしいところとも、勝手ながら感じております。

最後になりましたが、同窓生の皆様には、日本経済厳しい折、何かとご苦勞かと推察いたしますが、「照一隅者は国土」です。益々ご健勝にて、活躍されますよう祈念いたします。また、工学部・工学研究科にも、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(工学研究科長兼工学部長、工学研究科教授)

同窓会設立50周年記念募金の報告と御礼

同窓会設立50周年記念募金実行委員長
田守 芳勝（前会長、応物・昭和38年卒）

工学部同窓会は、2010年11月に設立50周年を迎えるにあたり、2009年2月の評議会において4つの設立50周年事業、すなわち、(1) 工学部同窓会50年史の編纂、(2) 会員、在学生、教員間の世代を超えた交流を図るITインフラの構築、(3) 工学部同窓会奨学金の創設、(4) 上記(2)、(3)の構築・運営に必要な資金の調達を目的とした募金（一口5,000円、目標額3,000万円）の実施、を行うことを決定し、これらの事業を鋭意進めてきております。

設立50周年記念募金については、2009年9月に会員の皆様に「趣意書」を送り、ご協力をお願いいたしました。また、当初の募金期間は1年でしたが、2011年3月までと期間を半年延長することとし、昨年と同窓会報を通して重ねてお願いしてまいりました。

その結果、2011年10月31日現在で、805名（複数回ご寄付いただいた方46名を含む）の方から、2,277.6口、11,385,080円（振り込み手数料17件2,920円を除く）のご寄付をいただきました。不況下にもかかわらずご協力たまわり、まことにありがとうございました。

学科別および現・元教員別の寄付者数、口数、寄付金額の内訳と寄付者ご芳名は、工学部同窓会ホームページ <http://www.osaka-cu.com/kougakubu/> に掲載しておりますのでここでは割愛させていただき、以下に寄付者ご芳名と募金口数を50音順で掲載し、御礼とさせていただきます。

募金事業経費、銀行口座通帳残高などに関する会計上の監査結果は、2012年2月の評議員会で報告させていただきます。

また、50周年記念募金振込先として開設した三井住友銀行、三菱東京UFJ銀行、りそな銀行の普通預金口座および、ゆうちょ銀行の振替口座は2012年3月31日付で解約させていただきます。ご了承のほど、お願い申し上げます。

寄付者ご芳名（2011年10月31日現在）

50音順、カッコ内は口数、複数回寄付の方は合計口数

會田 田人(4)	青木 修三(2)	青笹 正夫(2)	青谷 清史(2)	青山 滋(2)	明石 大一郎(2)	秋岡 武男(2)
秋山 貞夫(5)	秋山 高治(2)	明橋 克良(1)	朝顔 暁哉(2)	朝倉 英雄(2)	浅原 浩介(2)	東 恒雄(10)
*安達 成光(2)	安達 盛一(2)	新 邦夫(2)	天野 正治(4)	荒木 萬治(2)	荒堀 英雄(20)	顕谷 友博(2)
粟根 克昶(3)	安藤 剛(2)	井口 久治(2)	行藤 三男(5)	池側 義平(2)	池澤 安夫(2)	池田 博英(2)
池田 精二(2)	池田 眞昭(1)	井沢 国泰(2)	石桁 正士(2)	出田 幸一(1)	伊勢 昇(2)	伊勢 博幸(1)
井関 義弘(2)	磯部 貞夫(1)	井田 憲治(2)	伊田 宜史(1)	板倉 啓祐(2)	市川 絢子(2)	出原 守(2)
伊藤 忠(2)	伊藤 眞一(2)	伊藤 博之(2)	伊藤 陽一(2)	伊藤 雄二(1)	伊藤 和雄(2)	井戸垣哲郎(2)
井上 正昭(2)	井上 裕司(2)	井上 武司(2)	井上 英夫(4)	井上 保(6)	井上 光生(2)	井上 康郎(3)
井上 潔(2)	伊庭 力(1)	射場 祥夫(2)	今井 雅也(2)	今垣 雄一(1)	*今西 靖和(2)	*今橋 武(2)
岩井 求(6)	岩岡 祥平(2)	岩坂 忠彦(1)	岩田 賢造(2)	岩畑 翔太(2)	岩間 清(2)	岩村 真実(2)
岩本 昌之(2)	岩本 政和(4)	上田 進(2)	上田 和弘(2)	上田 祐男(4)	上田那須雄(3)	植田百合人(2)
植野 靖隆(2)	植野 道雄(2)	上野翔太郎(2)	上道 俊和(4)	上向井照彦(4)	植村 茂(2)	植村 渉(20)
鵜飼 正二(2)	内田 敬(4)	宇都宮恒夫(2)	宇根山健治(3)	梅田 逸樹(4)	梅谷 光男(1)	梅宮 典子(6)
鵜山 弘行(4)	江崎 昌男(3)	榎谷 新録(2)	榎本 剛一(1)	圓藤紀代司(2)	大河内芳信(2)	逢坂 勝彦(2)
大岸 敏章(2)	大木戸貞夫(2)	大久保高秀(2)	大倉 良司(4)	大倉 浩司(0.6)	大栗 靖弘(2)	大路 宗義(2)
大島 昭彦(2)	大島 泰弘(2)	大嶋 寛(10)	大島 信生(2)	大島 勇(2)	大嶋 良三(1)	大城 有司(2)
大曾根利彦(2)	太田 克己(2)	太田 洋一(2)	大津 隆行(4)	大塚 忠弘(2)	大月 正雄(2)	大槻 明広(1)
大坪 崇彦(1)	大西 康雄(2)	大西 正(2)	大西 耕司(2)	大場 敏弘(4)	*大橋 邦夫(2)	大花 継頼(2)
大原 春彦(2)	大東 清四(2)	大堀 俊典(2)	大前 秀治(2)	大俣 重興(1)	岡 保(2)	岡崎 絵美(2)
岡崎 正紀(2)	岡田 君仁(2)	岡田 聿之(2)	岡野 喬(2)	岡村 宏一(2)	岡村八十男(2)	岡本 次郎(2)
岡山 保美(2)	小川 俊介(2)	小河一眞佐(1)	小川 好信(3)	小川 雅三(2)	奥尾 光佑(2)	奥田 治(2)
奥田 三郎(2)	奥田 泰生(2)	奥中 均(2)	奥西 充彦(2)	奥野 正雄(2)	奥村 和男(2)	奥村 一弘(1)
奥本 隆昭(2)	小倉 斌(0.4)	小郷 良明(6)	尾崎 俊夫(4)	石崎 省吾(1)	尾関 正一(2)	小田 一紀(10)
小田 隆之(1)	落井 敏樹(4)	小原 啓慥(2)	加賀山 明(2)	*角野 昇八(6)	笥 文夫(2)	笠上 文男(2)
笠木 利勝(2)	柏木 輝也(2)	片岡 弘一(2)	片柴 秀昭(2)	片山 博之(1)	片山 博(2)	片山 慶教(4)
加藤 健司(4)	加藤 毅夫(2)	加藤 隆(1)	門田 清人(2)	金澤 克義(1)	金次 末廣(2)	金児 暁嗣(2)

金田 彌吉(2)	金田 幸雄(2)	加納 文質(1)	紙西 孝彦(2)	亀井 紀考(2)	川井 輝(1)	河合和三郎(2)
川上 一夫(40)	川上 重男(2)	川口 登(2)	川越 均(2)	川崎 博義(2)	川瀬 悟(4)	川田 章(2)
河内 秀二(2)	川原 忠司(2)	川南 裕司(2)	川本 克晃(2)	河本 和彦(2)	河盛 良夫(4)	河原林隆夫(1)
菊澤 一雄(2)	貴志 義昭(2)	岸田 龍(2)	岸田 智彰(2)	岸本 好弘(2)	北 慎治(2)	北 卓(2)
北 悦治(2)	北浦 堅次(2)	北浦 照雄(2)	北尾 博一(2)	北田 俊行(2)	北林 進(4)	北原 邦紀(2)
北洞 鋼一(2)	北村 泰彦(2)	北村 昌也(3)	北村 僚子(2)	城戸 琢磨(4)	木梨 洋(4)	木上 修(2)
木下 成(2)	*木下 雅悦(6)	木下 明(2)	木村 政雄(2)	木村 智(2)	木村 正昭(2)	木村 力夫(2)
木村 雅之(4)	木村 敏男(2)	京極 幸夫(2)	草木 陽一(2)	草開 稔(2)	楠 敏雄(2)	工藤 宗芳(2)
国川 忠徳(1)	久保 直(2)	久保 元生(2)	久保田静男(2)	久保田隆三郎(3)	蔵城 正之(2)	栗林 饒(2)
栗原嘉一郎(2)	栗政 幸一(2)	黒田 耕(1)	黒山 泰弘(2)	桑田 繁男(2)	桑原 利行(2)	毛戸 彰禧(2)
螻川内 学(2)	小出 哲(2)	洪 基欽(10)	向阪 保雄(10)	香崎 銀博(4)	小桑 徹(2)	小島 昌樹(2)
児島 健志(4)	小島 明(4)	後藤 良樹(2)	後藤 啓介(2)	小刀祢義治(20)	小西 陽雄(2)	小西 浩夫(2)
小西 健二(2)	小島 誠也(2)	小島 克朗(2)	小林 弘一(2)	小林 俊明(2)	小林 良三(2)	小林 誠哉(1)
小林 深(2)	*小林 治俊(2)	小山 和孝(2)	小山 雅之(2)	小山 夏美(2)	小山 正治(5)	紺谷真佐博(2)
近藤 信勝(6)	近藤 紘一(5)	近藤 久雄(2)	斎藤 厚士(4)	坂 壽二(6)	坂 好章(2)	酒井洋一郎(2)
境 敏幸(2)	坂口 秀世(2)	阪口 鉄兵(60)	坂田 勝(2)	坂根 正弘(50)	坂本 光正(1)	坂本 圭造(2)
坂本 渉仁(5)	作野 勤(2)	櫻井 忠光(4)	座古 勝(4)	佐々 裕介(2)	笹部 良信(2)	笹部 昌純(2)
笹部 徹(2)	笹部 和成(6)	笹脇 幸男(1)	佐藤 勤(2)	佐藤 紘二(16)	佐藤 恒之(4)	佐藤 嘉泰(2)
佐藤 孝(2)	佐藤絵理子(3)	佐藤 達男(2)	眞田 誠(4)	佐野 光茂(1)	佐野 寛(2)	更谷 俊明(0.4)
沢田 誠一(2)	塩飽 弘(2)	塩田 鉄(20)	汐見 勝彦(2)	塩見 幸雄(2)	四方 繁雄(2)	四方 時夫(2)
下谷 毅夫(2)	志野 太一(1)	篠原 卓志(2)	志波 徹(2)	柴田 重治(1)	柴田 慶三(2)	嶋 經夫(2)
島崎 良雄(2)	島田 辰郎(2)	島田 功(2)	嶋谷 宏文(1)	島野 昭雄(2)	清水 昭史(2)	下田 隆二(6)
十一家洋一(2)	情報工学科(2)	新家 彦司(3)	進藤 泰男(2)	神門 登(2)	末原 親司(2)	杉岡 泰蔵(2)
杉垣 彰教(2)	杉田 是好(4)	杉野 友則(1)	杉本 豊三(6)	杉本 正(2)	杉本 和繁(1)	杉山 功(2)
鈴木 浩文(2)	鈴木 広隆(2)	鈴木 節也(2)	鈴木 勢治(2)	鈴木 彩司(2)	須田耕太郎(6)	住谷 清(2)
住吉 康彰(1)	住吉 正信(2)	関 貴弘(2)	関 哲郎(1)	瀬古 謙一(2)	千田 恒人(2)	卒業生有志(4)
蘭頭 健吉(3)	園田恵一郎(4)	蘭田 由彦(2)	曾家 末晴(2)	田井戸悦男(2)	田井戸米好(2)	大門静史郎(1.6)
高井 広司(2)	高井 広行(4)	高木 一八(2)	高岸 秀宜(2)	高岸 秀康(2)	高桑 久茂(2)	高崎 伸彦(2)
高下 照久(2)	高田 直俊(2)	高田 利明(2)	高田 満(4)	高田 啓一(2)	高田 良雄(2)	高橋 栄三(1)
高橋 慧(1)	高橋 秀也(2)	高端 宏直(1)	高村 和義(2)	高山 吉龍(2)	カヤマ ヨシツグ(2)	瀧山 武(2)
竹内 忠雄(2)	竹中 恭二(10)	竹中 芳治(1)	竹村 泰彦(2)	田島 敏司(2)	巽 信一(2)	辰巳 昭治(10)
建部 渉(4)	田中 将裕(2)	田中康日古(2)	田中 弘 (2)	田中 清(2)	田中 章夫(2)	田中 宏(1)
田辺 育宏(2)	田辺 利住(2)	谷 保秀(2)	谷 俊寛(2)	谷池 義人(4)	谷浦 茂(2)	谷岡 昇(2)
谷川 康治(2)	谷口 徹郎(2)	谷口 幸大(2)	*谷口 修(2)	谷本 隆一(2)	谷本 哲三(1)	玉井 義弘(4)
玉村謙太郎(6)	田邨 裕幸(6)	田村 将(2)	田守 芳勝(10)	多羅間茂雄(7)	多和田雅和(2)	千藤 和成(2)
千原 一元(2)	辻 雄一郎(2)	辻 幸一(1)	辻江 賢治(2)	辻岡 哲夫(1)	辻野 陽介(2)	辻野 博(2)
辻本 浩章(2)	津田 啓一(2)	土谷 昭夫(4)	土谷 学(2)	土屋 浩一(2)	筒井 修二(2)	常城 晋治(1)
坪井 貞夫(4)	坂内 幾男(6)	津山 初雄(4)	寺井 章(6)	土井 孝夫(10)	土井 幸平(4)	土居 毅(2)
当麻 潔(4)	時川 和夫(2)	徳本 行信(2)	刀根健太郎(2)	土橋 慶一(2)	戸部 光伸(2)	富岡 敏男(1)
富田 孟(2)	富田 浩朗(2)	富永 匡哉(2)	鳥生 隆(4)	中井 義幸(2)	*中井 博(10)	中井 康秀(3)
中井 嘉一(2)	永井 雄(2)	長井 一郎(2)	中尾 義彰(2)	中尾 正喜(3)	中川 健太(4)	長崎 健(4)
長崎 光男(2)	中島 新二(2)	中島 光夫(1)	中島 徹(4)	中島 重子(2)	永島 敏郎(2)	中城 忠治(2)
中條 壯大(2)	中谷 成智(4)	中津 允秀(2)	中西 猛(2)	中西 岩大(4)	中野 亨(4)	中野 博支(4)
中野 道夫(2)	中前 直也(2)	中村 卓也(1)	中村 勝弘(4)	中村 正治(2)	中村 友治(2)	中村 恭三(24)
中村 良夫(2)	中村 初夫(2)	中村 智(2)	中本 英夫(4)	中山 隆(2)	行木 聖一(1)	成瀬 哲生(2)
南斎 征夫(10)	難波 恂爾(2)	西尾 和久(2)	西尾 健司(2)	西尾 哲(2)	西尾 雄太郎(1.6)	西岡 真稔(6)
西垣 好彦(2)	西川 一成(2)	西口 克彦(2)	西田 隆仁(2)	西臺 宏(2)	西野 毅(2)	西畑 恵治(2)

西村 秀敏(2)	西村 貞雄(1.6)	西村 伸也(5)	西村 邦夫(2)	西山健一郎(2)	日根 文男(2)	丹羽 克己(2)
布部 誠(2)	野尻 明(2)	野田 忠男(2)	野田 知哉(3)	野中 義弘(2)	野原 栄二(2)	野村 裕(2)
野邑 奉弘(2)	野呂 公昭(1)	萩田 英誠(1)	萩原 道興(1)	橋田 彰教(1)	橋本 興三(1)	橋本健次郎(2)
橋本 一 (2)	橋本 安弘(2)	橋本 良之(2)	橋本 三郎(1)	羽太 義人(2)	畠中 康夫(3)	秦野 啓司(2)
八田 信(2)	服部 俊一(1)	馬場 啓司(2)	浜田 正勝(2)	濱田 明(2)	濱 裕光(2)	濱田 勝弘(1)
浜田 勝(2)	浜田 宏(2)	[※] 浜本 嘉輔(2)	林 弘志(1)	林 好文(2)	林 勝美(2)	林 盈男(2)
原 晋介(2)	原田 次夫(4)	原田 實(2)	播口 正雄(2)	針田 一朗(4)	春田 正智(2)	萬代 信司(2)
日枝 仁郎(2)	東 麻生(2)	東田 和郎(2)	東野 哲二(1)	比企 執 (2)	樋口 泰一(1)	久門 輝正(2)
菱井 正夫(2)	比田 隆男(2)	人見 宗男(10)	日野 泰雄(2)	日野 誠二(2)	平居 孝司(2)	平野 忠良(4)
廣石 仁(2)	廣岡 孝一(2)	廣重 昇(10)	弘田 純(1)	廣田 尚彦(2)	深井 完祐(2)	深江 伸宜(2)
不可三 晃(2)	福井 康雄(4)	福井 俊治(2)	福井 敦史(2)	福岡 稔(1)	福田 武人(2)	福田 裕繁(2)
福富 芳樹(2)	福原 裕治(1)	福本 寛(2)	福本 昇(2)	福本 弘(1)	藤井 知生(8)	藤井 俊秀(2)
藤岡 誠一(2)	藤澤 隆章(2)	藤平 勝(2)	藤本 正史(1)	藤本 益美(2)	藤森 邦夫(2)	藤原 陽一(2)
藤原 輝明(1)	古川 一博(2)	古谷 利男(2)	古家 泰三(6)	[※] 星野 達郎(6)	細川 省一(10)	細田 誠(4)
細谷 幸三(2)	堀田 剛(2)	堀田 正国(4)	堀岡 慎司(2)	堀木 敏光(2)	本田 敬明(2)	本田 吉史(2)
本田 義和(2)	本田 清(2)	麻殖生健二(2)	前川 泰彦(6)	前川 紀夫(2)	前田 眞次(2)	前田 大晴(4)
前谷 治男(4)	前戸 鎮雄(1)	榊井 利英(2)	増田 俊平(2)	松井 佳章(2)	松井 暎明(2)	松尾 嘉春(2)
松尾 純也(1)	松岡 要三(8)	松下 賢二(2)	松下 行雄(2)	松島 實(2)	松島 清(2)	松谷 壽信(2)
松塚 幾善(2)	松村 裕史(2)	松村 義彦(1)	松村 正和(2)	松本 稔(1)	松本 滋雄(1)	松本 醇一(2)
松本 亘(4)	松本 雅史(6)	松本美治男(2)	松本 治(2)	圓井 良広(2)	丸橋 襄司(2)	萬代 宏(2)
万谷 隆宏(4)	三浦 孝之(1)	三浦 士郎(2)	三浦 洋三(10)	三笠 正人(2)	三木 啓示(1)	水落寿太郎(2)
水野 昭(2)	水野 泰(1)	三瀬 貞(2)	溝神宏至朗(6)	溝口 進(2)	三刀 基郷(10)	湊 勝比古(2)
南 宏和(2)	南 繁行(10)	南 博司(6)	南口 栄志(2)	宮内 栄三(2)	宮尾 信昭(2)	宮崎都三雄(2)
宮沢 友子(1)	宮本 潔(2)	宮本 英希(2)	宮本 万功(10)	宮本 二郎(2)	三好 康一(2)	向井 孝彰(4)
向山 博(2)	武藤 明德(2)	村井 俊文(2)	村上 武夫(2)	村木三智郎(2)	村瀬 通三(2)	邑瀬 和生(2)
村田 克浩(2)	村田 昭(2)	望月 秋利(2)	森 悠(2)	森 宏文(2)	森 肅之(3)	森井 繁夫(2)
森井 賢作(1)	森井 征治(2)	森井 満男(2)	森岡 孝道(3)	森下 英利(7)	森島 直正(1)	森田 秀世(2)
森田 芳次(2)	森本 幹雄(2)	森元 時夫(1.8)	森山 弘(2)	森吉 康雄(1)	諸木 赫夫(2)	森本 太一(2)
八木 裕有(2)	八木祐太郎(2)	八木 正樹(2)	八木 勝(3)	八木 利郎(2)	八嶋 敬市(2)	安田 要(2)
安原 喜之(2)	安福 創一(2)	柳川 重昌(20)	柳原 正夫(4)	矢野 孟彦(1)	矢野 典生(2)	矢ノ上滋郎(3)
藪 恭介(2)	山内 清(6)	山岡 清(2)	山岡 智則(2)	山上 雅実(2)	山岸 茂(1)	山口 敦(1)
山口 隆司(3)	山口南海夫(2)	山口 和文(2)	山口 剛(3)	山口 元樹(2)	山崎真喜雄(6)	山崎 嘉彦(2)
山下 一美(2)	山下 修(2)	山下 勝(2)	山科 正治(2)	山田 優(2)	山田 快藏(3)	山田文一郎(10)
山田 邦臣(2)	山田研太郎(2)	山田 康吉(2)	山中 朗(6)	山中 忠義(1)	山野 昇治(2)	山野 孝雄(2)
山野恒一郎(2)	山部 亨(2)	山村 雅則(18)	山村 光雄(1)	山本 博(2)	山本 孝(2)	山本 周次(2)
山本 修章(2)	山本 育男(1)	山本 重廣(2)	山本 圭三(1)	山本 宏(0.4)	湯本 逸(2)	吉川 浄(2)
横内 正人(2)	横田 昇(1)	横山 幹彦(2)	横山 宏二(2)	吉尾 勲(2)	[※] 吉岡 隆志(5)	吉岡 和雄(2)
吉川 達雄(2)	吉田 淳(3)	吉田 能己(2)	吉田 昭(2)	吉田 洋治(2)	吉田 稔(2)	吉田 長裕(3)
吉田 耕治(2)	吉中 進(2)	吉永 政二(2)	吉野 勝(2)	吉村 芳高(2)	吉村 啓介(1)	吉村 憬(2)
吉村 憲昭(2)	好本 秀夫(2)	米田 正博(1)	樂満 大介(2)	和氣 政広(1)	脇坂 知行(2)	脇田 勇(2)
脇本 辰郎(4)	和倉 慎治(20)	分島 幹夫(1)	和田 武(2)	渡辺 浩史(10)	渡辺 隆夫(2)	渡辺陽二郎(1)
匿名希望 1 (1.2)	匿名希望 2 (2)	匿名希望 3 (1)	匿名希望 4 (2)	匿名希望 5 (2)	匿名希望 6 (4)	匿名希望 7 (2)

以上 805名、2,277.6口

大阪市立大学の近況

大嶋 寛



お知らせします。

工学部同窓会報では、今まで大阪市立大学全体の動きについてはお知らせしていませんでした。しかし、同窓生の皆様には、工学部・工学研究科のみならず、是非今の大阪市立大学の動きも知っていただきたいという思いで、短い記事ではありますが、「大阪市立大学の近況」を

1. 平成18年に大阪市立大学が公立大学法人になってから6年が経過して、来年度から第2期中期目標・中期計画期間になります。この間、運営交付金（国からの交付金を含む）は、133億円／年から99億円／年に著しく減少し、外部資金獲得が必須です。専任教員数は830名から713名に、職員数（病院を含む）は574名から510名に減少しています。職員のうち市派遣職員は48名で、キャリアスタッフが166名、法人職員が296名となっています。学生数は変わらず、学部生、大学院生を合わせて、約9,000名ですので、教員一人あたりの学生数は12.9名となり、幸い、少人数教育は維持できています。因みに、京都大学の教員一人あたりの学生数は7.4名、神戸大学14.8名です。

2. 図書館機能と情報教育機能、さらに市民との交流会場機能などを兼ね備えた学術総合情報センター（地下3階地上10階）が開設されてから15年が立ちましたが、現在も新しい機能の建物が新築・増築・改築などでできています。いくつか紹介しますと、ユニチャーム会長（平成18年当時）高原慶一朗氏のご寄付で開設された高原記念館（展示等多機能空間）、旧図書館を改装した学生サポートセンター（全ての学部・研究科の学務機能など、対学生サービスを集約）、少し先走りですが平成27年3月完成予定の新理系学舎（理学部の

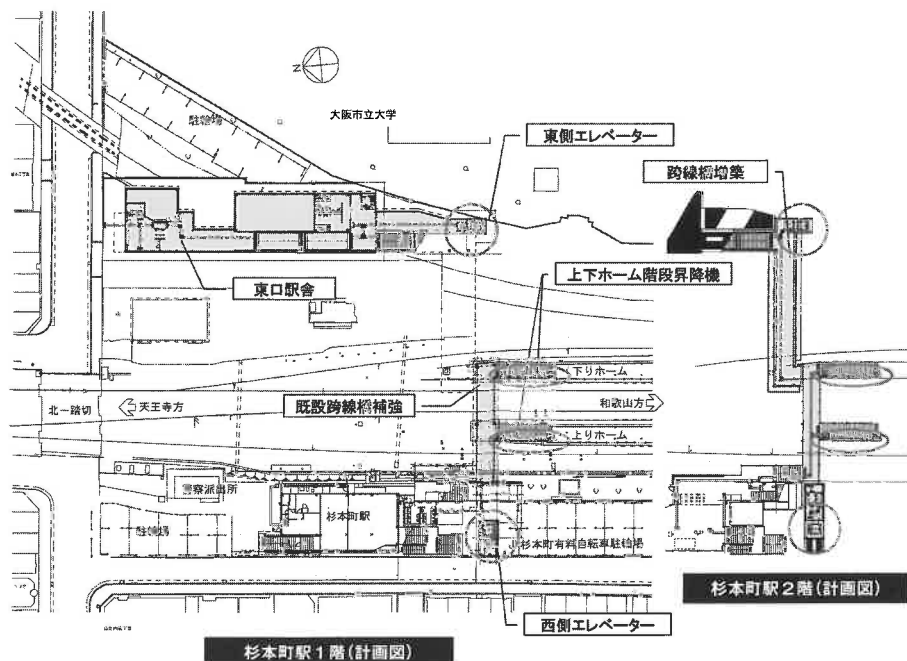
改修と新築・工学部・生活科学部を含む理系の研究施設機能）の建設開始などです。組織としては、学生サポートセンターの他、大学に広報室を置き、今まで脆弱であった大学の広報機能を強化しています。

3. 第一期中期計画（最終年度23年度）に対する平成22年度評価では、228項目中206項目について進捗している、18項目について特に進捗しているという評価を受けました。女性教員の採用という項目では、自己評価よりも辛い評価を受けました。今は23年度評価に向けた自己評価作業に入っています。また、次期中期目標が大阪市議会で可決されましたので、中期計画を作成中（11月）です。次期の計画では、英語によるコミュニケーション能力の強化などの教育に対する取組、シンクタンク機能の強化などの社会貢献に関する取組とともに、研究に対する取組では、西澤学長の肝いりで理系と文系の垣根を越えた「都市科学研究」の実施、国際研究交流ネットワークの拠点化などを挙げています。都市科学研究では、1）都市型次世代エネルギー研究（人工光合成研究）、2）都市防災研究、3）都市の健康科学研究を重点的に行うとしています。連携という観点からは、学部・研究科間の連携に留まらず、例えば、大阪府立大学、関西大学、横浜市立大学などとの連携がさらに強化されるとともに、他大学あるいは地域に根ざした銀行・信用金庫などとの連携も強化されます。また、教育研究で国際力を高める計画です。

4. 大学のランキングという言葉が、様々に飛び交うようになっています。大学としてこれをどのように評価するかは、難しい面もありますが、最近の評価を2、3紹介します。2011年版「本当に強い大学」総合ランキング（週間東洋経済（2022.10.22））では調査対象大学国立60を含む182大学中14位、アジア大学ランキング2011（QS（イギリスの教育調査会社）の調べでは日本で15位でした。

（工学研究科長・工学部長）

JR杉本駅の大学側に改札口が新設されます。平成24年7月完成予定



市大工学部への思い・提言・期待

辰巳 昭治



1990年10月情報工学科助教授として着任し、2011年3月末日で定年退職したことになりますので、工学部には20年と半年お世話になりました。現在も特任教授として、学部、大学院の講義を受け持っています。20年余りの間、二度の大震災、バブル崩壊後のデフレの経済状態など決して良い状況と言えない環境下で、教員生活を過ごしてきたかなど、教育実績、研究実績を回顧しています。今は、学科、委員会に束縛されず、年老いた一学生的な心境であり、部分的には専門分野から離れ、昔の教養部時代的気分になり、文庫本で復刻されたウィナー著「サイバネティクス」、リルケの詩集、カエサル著「ガリア戦記」を積読しています。在籍の間、6学科から8学科、さらに10学科体制と拡大し、一転、3年前から社会情勢の変化に伴う学科再編をし、6学科体制となりました。また、教養部を廃止し、一

般教育科目と専門科目を同時併存する「くさび型」教育に移行し、現在に至っています。大学に期待される教育として、国際的に活躍できる専門家の育成があり、英語教育の重視、専門教育の完成度の高い教育があります。このような期待に応じるには、現行の4年間では困難であり、また、大学院前期博士課程へ進学する学生が大部分である現状を考えれば、6年間一貫教育を取り入れることを考えなくてはと感じます。最初の3年間は旧制高等学校的に、語学教育、理系基礎科目である数学、物理、化学、生物と情報リテラシー、それに哲学（政治、歴史、美学など）を徹底的に行う。特に、語学教育は色々取り組まれています。外国人留学生の日本語習得法を見ると、1日6時間、1週30時間集中的に取り組む、短くて半年間掛けて日本語の習得をしており、大学入学直後、半年間は、英国ないし米国などで語学学校に入り、英語漬けの生活を体験させることが必要だと感じています。そして後の3年間は専門教育を徹底的に行い、創造性豊かな人材を育てていけたらと願います。

（大阪市立大学名誉教授、元工学研究科教授、現工学研究科特任教授）

機械工学科

機械工学科の近況

川合 忠雄



同窓会会員のみなさまにはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。今年3月11日にあった東日本大震災が生々しい思い出として、また現在も続く困難として、日本人一人一人に刻みつけられた年になってしまいました。近畿でも台風12号による災害で多くの人命が失われ、今もまだ土砂ダムとして危険が残ったままになっています。亡くなられた方のご冥福ならびに一日も早い復旧、復興をお祈りいたします。

さて、恒例により機械工学科の近況を報告させていただきます。人事面では、昨年度特任講師として採用された今津篤志氏が、常勤の講師になられました。退官された先生はみえません。大変残念なことです。長年にわたり多大な貢献を頂きました元木信弥教授が2011年3月5日に59才の若さで逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

今年工学部再編から3年目で、2012年4月からは新学科での卒研生を迎えます。現在、各学年4名程度の教員で学生を担当し、トラブル無く新学科にスムーズに移行できるように教員一同、頑張っています。今年、学部には58名の新入生（内、中国人留学生2名）を迎えました。大学院では、博士前期課程が40名、後期博士課程が1名の学生を迎えました。卒業生の進路は、進学が22名（内、他大学大学院進学者0名）、企業等への就職が6名、その他1名となっています。大学院前期課程の進路は、進学が1名（内、他大学大学院進学者0名）、企業等への就職が37名、その他2名となっています。今年、震災の影響により就職のスケジュールに大幅な変更が生じ、学生も大変厳しい状況でした。特に、車関係

の会社が採用時期を大幅に遅らせたために学生に対して大変大きな影響がありました。次年度以降、就職環境がどのようになるのか予断を許さないところですが、同窓会会員のみなさまによる一層のご支援をお願いいたします。

この記事が会報に載る頃には決着がついていると思いますが、大阪市と大阪府の関係は非常に微妙な状況になっています。大学、機械工学科としては政治状況に振り回されることなく、大学としてあるべき姿を求め続け、地域、社会に対して貢献し続けていきたいと思っています。今後ともご支援、ご鞭撻賜りますようお願いいたします。

（工学研究科教授・機械工学科主任教授）

近況～コミュニケーションについて～

平岡 直樹



最近、私の職場には中国の方が一緒に働いており、海外拠点とのやり取りを手伝っていただいております。中国語は当然ですが日本語もスムーズに使い、うまくコミュニケーションをとっており感心する程です。以前、海外出張した時、インドの方が使われる日本語の流暢さに感心したことも思い出し、改めて中国・インドの方々の活力を感じました。

私は卒業以降、製造業に携わっておりますが、製品を作りお客様に使っていただく間には、製品企画、開発、量産、販売等の様々なプロセスがあり、その中でコミュニケーションをうまくこなすことは非常に重要と感じております。

特に海外関係では、海外の方の考え方をよく理解した上で進める必要があります。海外の方の考え方を理解するのはなかなか難しいことですが、現地へ行くとその考え方の一端が垣

間見えます。

例えばインドへ行きますと、サイドミラーの無い車、1つだけある車、たまに両方ある車が見掛られ、我先にと競争するかのように車が流れており、また、その一方で聖なる牛が悠然と道を横断しております。日本では考えられない光景ですが、まさにインドのお国柄が伺えるところです。

今後、益々海外との関係は多くなりますが、このことを前向きに捉え、積極的にコミュニケーションをとり、活力ある仕事を推進したいと思う今日この頃です。

最後になりましたが、今回の機会を与えてくださいました瀧山先生はじめ同窓会皆様の益々のご発展ご活躍をお祈り申し上げます。(機械・昭和61年卒・三菱電機株)

近況報告

本間 志郎



市大を巣立ち早くも12年が過ぎました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

私は大学院修了後、川崎重工の研究所へ配属されました。研究をしながらの事業部支援が業務です。多様な製品の知識習得に苦勞し、また、英語も必要で今思えば人生で一番勉強した時期でした。

入社3年目、バイクのエンジン設計部へ異動となりまし

た。当時の私はバイクにさほど興味はありませんでした。しかしKX(カワサキのモトクロス車)に関わり始めて面白さが分かり、バイクを購入、すっかりハマりました。とはいえ面白いことばかりではありません。飽くなき性能向上、日程厳守の出図、開発途中で頻発する不具合、終わりに設計変更等に迅速な対応が求められます。特に量産直前のテストで不具合が発生した時は大変でした。すぐに対策をとらねばなりません。量産性を考慮しながら特に5W1Hの意識が必要です。関係者による昼夜不問の驚異的フォローのおかげで量産を遅らせずに「出荷許可」を貰えた時の喜びは格別でした。人の持つエネルギーの凄さを実感し、それに感謝したものです。しかしその余韻に浸るのも束の間、さっそく次機種の出図に追われ容赦ない開発スケジュールに同僚と苦笑いしたものでした。

入社11年目、鉄道車両事業部へ異動となりました。車両製造への新技術導入が現在の業務です。研究所での「知見」とバイク設計で培われた「量産性の見極め」が、今後の業務に役立つと信じるところです。

多様な製品を通じて人が行き交う、これが当社の特徴であり良い所です。苦勞もありますが、今後も励んでいこうと思います。最後になりましたが、在学中にお世話になりました皆様の今後のご活躍とご健勝をお祈り致します。

(機械・平成9年卒、同11年前期博士課程修了・川崎重工業株)

電気工学科

電気工学科の近況

辻本 浩章



卒業生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。電気工学科の主任を仰せつかった辻本です。昨年に続いての主任を勤めさせていただいています。工学部の再編が始まり、3年目となりました。電気工学科としての最後の学生は早くも4年生になりました。電気工学科の最後の学生が4年生になりましたので、多くの講義が終講となり寂しさを感じています。しかしながら、相変わらずの忙しさには変わりなく時間が流れて行きます。

電気工学科の5分野は、情報工学科に3分野、電子・物理工学科に2分野と分かれてそれぞれの教育を担当することになっていますが、大学院の体制はこれまでと変わらず、電気工学講座、応用物理学講座、情報工学講座の3つの講座で学生の研究教育を行っています。

昨年度には南先生が定年退職されました。と言っても特任教授として共通教育での講義や研究にご活躍されています。今年度は新たにNTTの研究所から重川先生が南先生の後任として電磁気学分野の教授として10月より着任されました。また電子回路学分野の高橋先生が情報工学科の教授に昇任されました。現在の電気工学科の教員は電磁気学分野(重川教授、武智講師)、電子回路学分野(會田教授)、光電子工学分野(向井教授、宮崎准教授)、材料計測工学分野(白藤教

授、大島特任准教授、田中助教)、電磁デバイス分野(辻本教授、村治講師)の10名体制で研究教育を進めています。

今年度の学部卒業予定者は31名でそのうち大学院進学予定者は22名です。一方後期課程への進学者は内部からゼロでした。辛うじて10月から社会人1名が入学されましたが相変わらず少ないのが現状です。

今年の就職についても、リーマンショックの影響が益々厳しさを増して昨年度以上に厳しいと感じています。昨年度と同様に求人数が半減したままで回復していない状況が続いています。今年度修了卒業予定のうち多くの学生の就職が決まりほっとしていますが、残念ながら修了卒業予定の学生のうち数名の進路が決まっていない状況です。今年度は3月の大震災、原発事故など不幸の出来事が続き、全国的な電力不足のため多少の不便を感じています。電力不足の影響で時代の流れが大きく変化し、地球温暖化対策、エコ等が多く聞こえるようになり、ハイブリッド自動車、電気自動車、太陽光発電また電気エネルギーの有効利用等により電気工学が再び脚光を浴びるようになりました。特にモータの復活が大きいです。その影響でこれまで求人がなかった複数の自動車会社からも求人が来るようになりました。先にも書きましたが、今年3月の大震災で不幸にもお亡くなりなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げますと共に、被災された方々の速やかな復旧復興を願っております。

末筆ながら卒業生の皆様の益々のご発展をお祈り致します。(工学研究科教授・電気工学科主任教授)

第4回杉友会

山口 南海夫



6月4日に第4回杉友会を行いました。この会は昭和40年、41年電気工学科入学の仲間の同窓クラス会です。平成20年から毎年開催し、今年も24名の参加で、大変盛り上がりました。一次会、二次会と酒杯をを重ねるにつれて、いろいろな隠し芸が披露され、日ごろの研鑽がしのばれました。諸般の事情により卒業年次は異なっていますが、年齢が前後しているお陰で、それぞれが尊敬しあう、話題豊富な楽しい会です。工学部同窓生各位も、このような学年を超えた気さくな集まりを催されてはいかがでしょうか。

(電気・昭和44年卒 工学部同窓会理事)



近況報告

小田 智嗣



卒業生の皆様におかれましては、お元気でご活躍されておられることと存じます。

昭和62年にIT企業に就職して二十数年が経ちました。

入社当時は大型コンピュータを利用した金融・証券業界のオンライン対応が全盛で、今ではレガシー(遺跡)と呼ばれる専用環境で深夜までプログラムを作っていたことを思い出します。そして、現在はパソコンとインターネットを利用したサービスの構築に携わることが多くなりました。

当時を振り返ってみると、ITによって仕事や生活のスタイルは随分と様変わりしたように思います。一昔前は知りたい情報があれば、足を使い、専門書を繰って調べるしかなかったのが、今やキーワードを入力して検索ボタンをクリック…それだけで大抵の情報は手に入ります。便利な時代になったものです。

それに伴ってか、入社してくる若者たちも変わってきたように思います。ゆとり教育を受け、物心ついたときからインターネット環境が当たり前のようにある世代…電子メールやネット掲示板による文字中心のコミュニケーションをとりたがる彼ら・彼女らにとって、対面の会話の重要性を説く我々はもはや旧世代の「遺跡」なのかもしれません。入社当時は上司によく「今どきの若い者は…」と言われたのですが、

全く同じことを言っている自分がいます。時代は繰り返すのかと考えながら、日々同じことを説き続けています。

最後になりましたが、皆様の一層のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。遺跡ももうしばらく頑張ります。

(電気・昭和62年卒・(株)オージス総研)



2011.8.21「同期会」

近況報告

溝畑 勇介



まず始めに、今年の3月11日に起きた東日本大震災で被害に遭われた方に心よりお見舞い申し上げます。また、それに伴う電力供給不安により、対応に苦慮されている電力会社や各種企業に勤められている方も多いかと思えます。私は震源地からは遠く離れた大阪府池田市で勤務

していますが、揺れは大阪にも届いていました。やはり東北の事業所や関連会社は被害が大きく、また今になって思うように部材が供給されないなど、未だに震災の影響が色濃く残っています。

正直なところ、私の周りではあまり明るい話がありません。リーマンショックから立ち直れない内に今回の震災、そして追い討ちをかけるような超円高。これまで通りのやり方では利益が出ないため、大きな変革が求められる状況となっています。変革とは、要は業務効率化による人件費の削減、つまりは残業規制などによる収入減なわけで、寂しくなった給料明細を見ると、将来について不安を感じざるを得ません。幸か不幸か、家庭を持つ予定は今のところありませんが…。

話は変わりますが、私が学生時代に所属し、学業よりも熱を入れた応援団が、今年50周年を迎えました。私は40周年の時に11回生ということで、ほんの10回生ですが、その間に存続できなくなる他大学の応援団も少なくありません。その中でこういった歴史を刻めるということは、時代に即した団体に成れているのでは？と手前味噌ながら思います。

市大工学部も大きな変化があったようですね。この変化から、更に素晴らしい大学になって欲しいと思います。

市大と市大を卒業された皆様、そして私の更なる発展を祈っております。頑張らしましょう！

(電気・平成17年卒・同19年前期博士課程修了・(株)リコー)

応用化学科の近況

小槻 勉



卒業生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。すでにご存じかと思いますが、平成21年4月から応用化学科とバイオ工学科を統合し、新しく化学バイオ工学科(定員56名)として発足しましたので、現在、応用化学科に在籍する学生は、4回生27名、その他3名と

なっています。

学部学生の針路については、卒業予定者27名に対して約80%の学生が他大学を含めて大学院前期博士課程への進学を予定しています。また、就職を希望している学生達は、公務員を含めてほぼ全員針路が決まっています。

さて、人の動きが若干ありました。まず、平成23年3月末日をもって圓藤紀代司先生が、定年退職されました。定めとは云え寂しい限りです。一方、平成23年4月より小島誠也先生が教授に昇任され材料化学分野を、佐藤絵理子先生が講師として採用され松本章一先生と共に高分子化学分野を担当されています。なお、学科として活動するのは、応用化学科に入学してきた学生を全て送り出す平成24年3月までの予定です。それ以降は、専任教員19名で化学バイオ工学科の学生を輩出することになります。応用化学科を卒業された皆さんは、一種の寂しさを感じられると思いますが、応用化学科の伝統と遺伝子は、新しい化学バイオ工学科へと引き継がれますのでご安心下さい。

大学院は、平成14年4月から既に化学生物系専攻として活動していますので新学科の運営母体そのものに変化はありません。この大学院後期博士課程には、社会人特別選抜制度と云うものを設けています。職場で働きながら大学院でスキルアップ、しかも世界で通用する学位取得を目指したい卒業生の方々には是非検討して頂きたい制度です。今後ともご指導・ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

(工学研究科教授・応用化学科主任教授)

近況報告

須原 豊



街も山も色づくこの頃となり、益々季節の趣が深くなって参りました。卒業生の皆様方におかれましては、益々ご健勝のことお喜び申し上げます。

この季節になるといつも思い出すのは、米国ニュージャージー州駐在時に経験した、黄橙色に染まった雄大な山々の風景です。関西で慣れ親しんだ人混みの紅葉狩りと違い、そのスケール感には感動したものです。ニュージャージーは、ニューヨーク州の西側にあたり愛称Garden Stateと呼ばれ、正しく森林豊かな州です。ハドソン川にかかる巨大な吊り橋ジョージワシントン橋を挟んで大都会マンハッタンとのギャップが妙に米国らしさを感じました。

赴任は、9.11の半年後でまだグラウンドゼロでは焦げた臭

いと埃が舞っておりました。その秋にはアジア貿易の要である西海岸の湾岸ストが有り、所謂ロックアウトで、仕事上大いに困り果てました。冬になり、年に数回東海岸を襲う猛吹雪で完全に外出不能となる、所謂ホワイトアウトを経験し、次の春にはイラク戦争が始まりCNNは毎日トップニュースで戦況を伝えました。夏になり、五大湖のどこかの発電所に起因したニューヨーク大停電があり、13時間所謂ブラックアウトにも遭遇しました。一年目がこれですから、毎年実に見事に色々イベントが多く、仕事も充実しておりましたし、話題に事欠かない5年間でした。大きく人生観も変わったと思います。

大阪に戻って早5年が過ぎ、日常に忙殺されている自分がおります。50歳も過ぎ、来春入社30年となる節目を迎えようとしています。市大工学部応用化学科卒の誇りを胸に御同窓各位のご活躍に刺激を頂きながら、まだまだ精一杯力を振り絞りたいと思っております。

(応化・昭和57年卒・岩谷産業株)

近況報告

本河 卓也



卒業生の皆様におかれましては益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

私は平成元年に応用化学科を卒業後、日本農薬株式会社に入社し、13年間、新規農薬の創出に携わった後、大阪ガスケミカル株式会社に転職し、現在は携帯電話や液晶テレビ等に使用される光学樹脂製品の品質保証関係の業務に従事しております。

日本農薬に勤めている間は大学にて学んだ合成化学の知識、経験を生かし、新規農薬の研究開発、量産に向けたプロセス検討、GLP分析等、農薬の研究から製品化にいたる一通りの業務を経験しました。大阪ガスケミカルに入社後はファインケミカル製品の開発に従事し、当社独自の材料にて液晶テレビやモニターの部材である高輝度シート用のUV硬化樹脂を製品化しました。

現在は品質保証室に在籍し、お客様からの種々の調査依頼に答えています。最近では国際的な環境負荷物質削減の流れを受けて環境負荷物質不使用の要求が年々増えているのが特徴です。当社の主力製品である光学樹脂は携帯電話やデジタルカメラのレンズ材料として使用されていますが、最近ではスマートフォンのカメラレンズにも採用されており、皆さんの使用される機種にも搭載されているかもしれません。



2011.1.22「木下研同窓会」

話は変わりますが、昨年、旧木下研の同窓会に参加させていただき、昭和45年卒から平成10年卒の卒業生28名の方と当時の思い出話や各々の近況を語りあい、楽しいひとときを過ごさせていただきました。旧友、後輩との語らいはもちろん、在学中は何かとお世話になりながら、長年お会いする機

会のなかった諸先輩方に久しぶりにお会いできたのは感謝の至りでした。

最後になりましたが、皆様の益々のご発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(応化・平成元年卒・大阪ガスケミカル㈱)

建築学科

建築学科の近況

谷池 義人



近況報告に先立ち、今回の東日本大震災で被災された方々に心からのお見舞いと、犠牲になられた方々に心から哀悼の意を表します。建築防災に携る者として、人が自然現象の規模、強度、時刻・場所を想定することが如何に傲慢で愚かしいことであったかを痛感しております。

さて、学科主任は、過去に3度勤めましたが、今回は10年ぶりです。学科内で最年長になり、気力、体力も衰えましたが、建築学科の皆さんのご支援、ご協力の下、なんとか主任業務をこなしております。本学教員の定年が、これまでの63歳からスライド的に65歳まで延長になり、今年度退職される先生は一人もおりません。教員の高齢化が益々進みますが、今年4月に、西日本工業大学から倉方俊輔先生(1996年早稲田大学大学院修士課程修了)を建築デザイン分野・建築史担当の准教授としてお迎えすることが出来ました。先生は、本学の総合建築教育方針に共感して、情熱的・実質的な教育と、科学的・理論的な研究の両方を実践していきたいとの抱負をお持ちです。

昨年度、日本技術者教育認定機構に、建築分野のJABEEプログラム認定の継続審3月までの継続延長が認められ、この間の本学科卒業生は技術士を受験する際に一次試験が免除されることになりました。近畿圏の国公立大学の建築学科では、本学のみが認定を受けております。建築学科教員が一丸となって、膨大な時間と労力を掛け、建築教育の質保証に励んできた成果だと自負しております。

さて、建築学科は今年度から指定校制推薦入試を始めました。偏差値による入学者の均質化を是正して、多様な能力を有する入学者を交えた「異種混成」の集団を作り、建築学教育をより活性化しようと目論んでおります。北陸、近畿、中国、四国、九州地域から学校長推薦による6名の優秀な生徒を受け入れ、一般入試と合わせて今年の新入生は36名(内女子5名)になりました。次に、学生の進路状況につきましては、学部4年生は26名中、大学院進学予定者16名、就職内定者6名(建設会社2名、設備メーカー1名、プレハブメーカー1名、電鉄会社1名、不動産会社1名、生命保険会社1名)、未定4名となっています。なお、出版会社、広告代理店を希望してもう1年就活する学生も未定に含まれております。また、院2回生は17名中、就職内定者14名(建設会社3名、設備メーカー1名、設計・コンサルタント3名、プレハブメーカー4名、機械メーカー1名、商業施設運営会社2名)、留学1名、未定2名となっています。ただ、苦勞して

JABEE認定を受けましても、建築系企業に就職する学生が少なくなっているのが悩みの種です。最後になりましたが、皆様方の益々の御発展と御活躍をお祈り申し上げます。

(工学研究科教授・建築学科主任教授)

ドバイより帰ってきました

奥田 上総



小生2008年4月1日に突然会社より希望した覚えのない海外赴任を打診され、同年6月より3年2ヶ月強の間、中東アラブ首長国連邦のドバイで中東初のメトロ建設工事に携わりました。2011年8月1日に無事引渡しを終え、同年9月初旬に日本へ帰任いたしました。

ドバイというリゾート地で華やかなイメージがあります。高級リゾートホテルでスパを楽しむといった光景をテレビ等でお目にかかれた方も少なくないでしょう。確かにそういった場所もたくさんありますが、建設の場ではそのような華やかな場面とはかけはなれたものでした。

小生が赴任した当時は高層建築物等のラッシュで、材料が手に入らない、人手がないといった局面に出くわしました。多くの労働者はインド諸国、東南アジア、中国から来ております。アラブ人は、ショッピングモールで買い物をしている人か、空港の入出国審査スタッフ程度しか見かけることはありません。この国が、いかに外国人労働者によって成り立ち続けているかということがうかがい知れます。

当プロジェクトは、弊社始まって以来最大のものでしたが、日本でも話題になった「ドバイショック」の影響を受け思うような業績をあげることはできませんでしたが、ドバイの歴史に弊社の名を刻んだことは感慨深いものです。

日本では大学生の就職率が劇的に低下してきています。日本人も、ドバイで働く外国人労働者のように海外へ職を求める時期になってきたのかもしれませんが。一方で、働き手が年々減少している建設業界では、今後外国人労働者も増えてくるのではないのでしょうか。

何はともあれ、小生の人生設計の中になかった海外勤務は確実に有益なものになったのは間違いありません。

(建築・平成11年卒・同13年前期博士課程修了・㈱大林組)

近況報告

西村 真



皆様、いかがお過ごしでしょうか。平成22年に工学研究科を卒業し、社会人となり1年半が経過しました。ゼネコンに入社して1年と3ヶ月は建設現場でマンション工事を経験し、現在は設計部で建築構造設計の業務をしています。

入社当初から約1年間の現場勤務では、大半が力仕事と職人さんへの声かけであり、学生時代とは大きく異なる環境に多少こたえました。

現在、設計の実務を行っておりますが、学生時代に学んだ知識だけで実務をこなせるはずもなく、日々参考書に向き合っております。設計部の業務内容は、受注した物件の企画設計から実施設計、現場の監理と多岐に渡り、想像していた以上にディスカッションが多いため、非常にやりがいのある

仕事です。私は配属されて日が浅いため、先輩社員の仕事の手伝いや、それをこっそり盗み見しながら仕事を覚えていつている段階です。その中で、建物の構造的な特徴を詳しく記載している構造図という図面を書くことがあります。現場での経験から、実際どのようにして工事を進めていくのかを想像しながら作成するので、そこがゼネコンの魅力のひとつではないかと思っております。また、意匠設計や設備設計の担当者とは何度も打ち合わせをして、共通の認識で設計ができているかを確認しています。とにかく一日の大半が打ち合わせで、学生時代にグループで行った設計演習がありました。今となっては良い経験をしたなと思っております。

学生時代の同期とは、定期的に呑み会を開いてお互いの近況を報告しています。年間を通して会う時間は少なくなりましたが、学生のとくと変わらない結束力を維持しております。

最後に、皆様方の益々の活躍を心よりお祈り申し上げます。
(建築・平成20年卒・同22年前期博士課程修了・鉄建建設㈱)

都市基盤工学科

都市基盤工学科の近況

重松 孝昌



卒業生の皆様におかれましては、益々、ご健勝のこととお慶び申し上げます。いよいよ都市基盤工学科の最後の学年を送り出す年度となってしまいました(若干の例外者はいますが)。彼等の進路は、進学16名、公務員3名、民間会社等6名となっております。大学院生の進路は、公務員2名、民間会社等30名(環境都市工学科の卒業生を含みます)です。

教育の軸足は都市学科に移行しつつあります。定員50名の都市学科教育の充実を図るため、本年4月1日には大島昭彦准教授が地盤工学分野の教授に、10月1日には内田敬准教授が都市基盤計画分野の教授に、角掛久雄助教が構造及びコンクリート工学分野の講師に、それぞれ昇任されました。日野泰雄教授は、人事関係上、環境都市計画分野を担当されるとともに、今年度も工学研究科副研究科長としてご活躍されています。また、都市基盤工学科および都市学科の教育にご尽力いただいております大内一先生と東田淳先生は、本年3月末日にめでたく定年退職を迎えられましたが、今年度も特任教授としてご尽力を賜っております。

本年3月11日には、想像を絶する地震・津波災害が発生いたしました。卒業生の皆様をはじめ、皆様の近しい方のご無事をお祈り申し上げます。東日本大震災は、自然の脅威のすさまじさだけでなく、我々の日常生活の安全性や我々を取り巻く環境、今後の目指すべき都市像など、私達の生き様あるいは価値観について問いかけています。今後も、都市学科の教育を通して、日本の社会を支える人材を育成・輩出し続けたいと考えております。今後も引き続き、卒業生の皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(工学研究科教授・都市基盤工学科主任教授)

近況報告

柴田 卓詞



昭和60年に関西電力に入社して以来、26年余りが過ぎました。入社したころは、ちょうどバブルの始まった頃で、電力の需要がグングン伸びていました。そのため、火力発電所、原子力発電所、揚水式水力発電所と、発電所の新設計画がたくさんあり、景気のいい時代でした。

関西電力では、主に火力発電所の建設に携わってききました。一度、原子力発電所の建設も経験したことがあります。原子力発電所の建設を行う場合、土木技術者の業務は、土木設備の計画、設計に加え、発電所周辺の断層調査、過去の地震記録の整理等を通し、敷地に発生する地震の規模を推定するという業務があります。もちろん、津波高さの予測も土木の業務です。


原子力の設備は、通常の設備に比べると、かなり安全側な設計になっており、これまでは想定を上回る地震が発生しても設備に重大な損傷が発生することはありませんでした。想定を上回る地震が発生すると、その原因を追究し、日本中の原子力設備で地震力の見直しを行い、安全性をチェックするしくみも出来ていました。今回の福島第一の事故は、津波による電源の喪失という思いもかけない事象が原因です。電源に対する対策であれば、比較的簡単に対応できますので、まさしく、盲点をつかれたようであり、原子力に携わった者として残念でなりません。

今後の電力供給がどのように変化するか、まだよく分かりませんが、いずれにしろ大きな転換に迫られるでしょう。定年まで残り10年弱、大きな変化の中で過ごすことになりそうです。

(土木・昭和58年卒・同60年前期博士課程修了・関西電力㈱)

近況報告

玉瀬 充康



大学を卒業して、早8年が経過しており、卒業後は、大学へ行く機会もほとんどなく、同窓会だより等で、大学の動向を知るような状況ですが、今でも大学時代の友人と会う機会があり、当時の話で盛り上がるなど、大学時代のことは今でも良い思い出となっています。

大学卒業後、大阪市役所に入り、水道局に配属されて8年が経ち、社会人として、大学で学んだ知識だけではなく、人と人のつながりの大切さを実感しています。水道局では、これまで、設計・積算に関する業務や現場施工監督に関する業務などを経験し、現在は、計画・危機管理に関する業務を担当しており、水道全般に関する幅広い

知識や視野が求められ、日々勉強の毎日です。

これまで経験してきた中で、水道工事現場周辺の近隣の住民の方々から、「水が出るのに、なぜ、工事をする必要があるのか。」と問われることがよくあり、水道事業の理解を得ることが大変でした。様々なことに便利な世の中になり、蛇口をひねれば水が出てくるのは当たり前といった固定観念のもと、様々なニーズが増えてきている一方で、市民の公務員に対する風当たりが厳しいものであることも実感しました。

また、組織内部でも、コンプライアンスの浸透により、これまで以上に、個人に対する責任が問われるような状況となっており、市民目線に立ち、公平性や正確性に強い意識を持って業務をこなしていくことが求められています。


このような状況の下、後ろ向きになるのではなく、前向きな姿勢で、これまで構築してきた人間関係を大切に、幅広い視野を養っていききたいと思います。

(土木・平成15年卒・大阪市役所)

応用物理学科

応用物理学科の近況

中山 正昭



今年3月11日の東北地方太平洋沖地震は、東日本一帯に甚大な被害をもたらした。政治経済等の国内状況は混迷が続いています。まず、被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。このような混迷、混沌とした時代にこそ、良い教育と高いレベルの研究を行い、優れた人材を


育成することが重要であり、教員一同、一層の努力をしています。学生達の状況ですが、4回生に関しては、24名中、20名が本学大学院進学、3名が他大学大学院進学、1名が就職内定となっています。前期博士課程では、19名中18名が就職を内定しています(未定者1名は公務員志望)。厳しい状況の中、学生達も頑張っています。

さて、とても寂しいことですが、応用物理学科は今年度末(平成24年3月末)をもって、昭和32年に設立されて以来の55年にわたる歴史の幕を閉じます。平成21年の学科再編によって、応用物理学科と電気工学科の2分野(電磁気学と材料計測工学)が融合して電子・物理工学科(7分野、教員15名)が発足し、今春3期生42名を迎えました。「大学の歴史・大阪市立大学工学部」(教育文化出版)を紐解くと、学科設立当初は(当時は理工学部)、電子工学、固体物理学、応用熱力学の3講座体制で(ただし、1講座当たり教授1名、助教授1名、講師1名、助手3名の7名の教員体制で、現状の2名とは隔世の感がある)、電子工学を担うことが応用物理学科の使命の一つであったことが分かります。この意味で、電子・物理工学科は、応用物理学科の伝統を引き継ぐものであると言えます。これまでの良き伝統を基盤として、新たな未来を切り拓くことを模索しています。引き続き、卒業生の皆様のご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

(工学研究科教授・応用物理学科主任教授)

近況報告

野間 誠二



皆様、ご無沙汰しております。平成18年修士課程修了の野間です。はじめに昨年の春に発生した東日本大震災にてOBの皆様の中にも被災された方や、ご家族が被災された方がいらっしゃると思います。心よりお見舞い申し上げます。

さて、時が経つのは早いもので私が大学を離れもうすぐ6年になります。現在、私は車載用半導体のプロセス開発を行っています。車載用半導体は民生品と比べ、厳しい環境下で長時間使用されることから高い品質、信頼性が要求されます。また自動車業界自体、今までのガソリン車からハイブリット車、電気自動車に代表される「未来のクルマ」へとシフトする激動の時代の中にあります。私はこのような状況の中で働けることに大変やりがいを感じております。

今でも同級生とは連絡を取り合い定期的に飲みに行っています。仕事や家庭を離れ、同級生と近況報告や昔話をすることで、学生時代に戻った気持ちになれます。それに学生時代の自分を思い出すことで、改めて今の自分自身を見つめなおすことができます。入社当時、慣れない環境下で働いていく中で萎縮してただ黙々と働いている自分に気づいたのは、同級生と飲みに行っている時のことでした。何でも話し合える大学時代の仲間は私にとってかけがえのない財産です。

プライベートでは、まんまと妻を口車に乗せ結婚することに成功し、昨年の夏に待望の長女が生まれました。このように何とかやっつけていけているのは二十代前半をすごした大阪市立大学工学部のお陰だと思っています。決して得意の口車ではございません。先生方、先輩方には大変お世話になりました。

最後となりましたが、皆様のご活躍をお祈り申し上げます。(応物・平成16年卒・同18年前期博士課程過程修了(・兼デンソー))



「筆者の結婚式に出席してくれた同級生、平成21年12月」

近況報告

小田 純平



急に肌寒くなり遅い冬の到来を感じるこの頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

私は平成23年に前期博士課程を修了し、携帯電話用レンズやDVDやBlu-ray用ピックアップレンズ等の設計・製造を行なっているプラスチック光学部品メーカーに入社しました。入社してまだ8ヶ月ほどしか経っていませんが、研究室で学友たちと過ごした日々がずいぶん昔のように感じます。入社後は様々な研修を

急に肌寒くなり遅い冬の到来を感じるこの頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

私は平成23年に前期博士課程を修了し、携帯電話用レンズやDVDやBlu-ray用ピックアップレンズ等の設計・製造を行なっているプラスチック光学部品メーカーに入社しました。入社してまだ8ヶ月ほどしか経っていませんが、研究室で学友たちと過ごした日々がずいぶん昔のように感じます。入社後は様々な研修を

情報工学科

情報工学科の近況

原 晋介



む8分野になります。

昨年度には、辰巳先生が定年退官されましたが、今年度も引き続き特任教授として元気に教鞭をとっておられます。今年度は、電気工学講座電子回路学分野の高橋先生を情報システム工学分野の教授として、また、大阪大学から田窪先生を知識情報処理工学分野の准教授として10月からお迎えすることができました。

現在、学部4年生は28名、大学院前期博士課程2年生は23名です。学部4年生のうち22名が大学院に進学予定で、その他が全員就職を希望しております。しかし、昨今の景気の影響で、今年度の学生の就職はあまり芳しくありません。原因の一つは学生のコミュニケーションの能力です。情報工学科には、コンピュータが好きな学生が集まってきており、彼らの中にはコンピュータを操るのは好きだけど人と話をするのは好きではないという学生が少なくありません。そのことがコミュニケーション能力の低下を招いているようです。従って、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を磨くキャリア開発の講義等も学部1年生の時から始めなければならぬかと思案しているところです。少し暗い話をしました

うけ、現在は要素技術開発と製品設計に携っており、すこしずつ業務に慣れ始めているところです。

プラスチック光学部品の中には、レンズ単品ではなく、複数のレンズや鏡筒・絞りを組み合わせたユニット品があります。ユニット品の設計には、レンズなどの光学系の設計、鏡筒などの機構設計、電装部品やソフトウェアなどの電気系設計など、多くの設計があります。また実際に商品を生産するので、製造部門と話し合い、作りやすく、検査のしやすい、安く作れ、不良の出ない商品になるよう、現場の声を設計に反映させる必要があります。現在私は、先輩の元でこういった話し合いの場に参加し、仕事の流れや設計時に気をつけなければいけない要点、機構設計についての基礎知識を学んでいるところです。ゆくゆくは私が携わった商品を世に供給したいと考えています。

まだまだ勉強しなければならないことは数多く、今後様々な知識と経験を積み、幅広い視野を持ってより良い商品作りを行なっていきたいと考えています。

最後になりましたが、皆様のますますのご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

(応物・平成21年卒・同23年前期博士課程修了・ナルックス(株))

が、明るい話もごございます。それは来年度の本同窓会だよりで明かされることとなりますので楽しみにお待ち下さい。

最後になりましたが、卒業生の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。(工学研究科教授・情報工学科主任教授)

卒業生の集いについて

牧野 宏哉



2002年に情報工学科を卒業して早10年近くが経ちました。卒業後は携帯電話の通信会社に就職し、NW保守部門から開発部門を経験し、現在は3Gのエリア品質の改善並びに、LTEのNW展開と品質向上を主な業務として携っております。プライベート面では研究室の追い出しコンパの中で、卒業後の抱負として「xxの開発で頑張る」等々内定企業での意気込みを語る方々とは異なり、「幸せな家庭を築く」といった、場違いなコメントを残して去っていましたが、そのコメントの通り、7年前に結婚し子供二人に恵まれ、今のところ問題なく幸せな家庭を築いております。今後はこの環境維持・向上に注力しなければいけません。が・・・。

さて、卒業生の集いとしては年に2回、在学中に所属していたクラブの先輩・同級生・後輩で集まるとは、大学時代の昔話、武勇伝(?!)、そして近況を語り合っております。卒業後10年もたつと、それぞれ仕事やプライベート面でも環境が変わり、責任ある立場になっていることもあり、昔とは異なり大人な集いになってきました。と、言いたいところではありますが、やはり大学時代といった独特な雰囲気の中で出

会ったメンツということもあり、結局当時の空気感でのバカ騒ぎをする集いとなっております。この集まりの中に出る話として、現状の課題や、新規サービスに向けてのアイデアなど仕事につながる刺激もあり、同時にストレス発散の場にもなり、私としてもかけがいのない集まりとなっております。

す。ひとつ不満としては、なかなか集まるメンバーの中で既婚者が増えないことで、既婚者と独身貴族のギャップが年々広がっていくところぐらいでしょうか・・・。

以上、駄文ではございましたが、近況報告とさせていただきます。（情報・平成14年卒・(株)NTTドコモ関西）

バイオ工学科

バイオ工学科の近況

東 雅之



卒業生の皆さんお元気ですか。生物応用化学科からバイオ工学科へと変遷してきた当学科も、現4回生が最後のバイオ工学科所属となり、次年度から全学年が応用化学科と統合してできた化学バイオ工学科の所属となります。

学科の統合は順調に進んでいます。1学年56名の大所帯ですが、各種面談を取り入れきめ細かな指導を行っています。大阪府南部の淡輪で毎年行ってきました1回生合宿は、学科統合後も継続され今年で8回目です。総勢80名前後の大合宿でホテルを借り切っています。アンケートを読む限りは好評で今後も継続されます。皆さんに講演を依頼することもあります。その節はよろしくお願います。

バイオ工学講座の教員体制は、昨年から変更はなく5分野（各分野教員2名）で協力して進めています。後期博士課程には社会人特別選抜制度もありますので、働きながら学位取得を目指す方は利用下さい。また、大学も様々な連携を進めています。皆さんも母校で共同研究等を模索してはいかがでしょうか、気軽にご相談下さい。

バイオ分野を取り巻く環境ですが、バイオ産業の大きな発展とまでは進んでいませんが、私が就職した25年前に比べると、確実に身近なバイオ製品が増えています。発展への予兆と期待しています。来春卒業・修了予定学生の就職状況ですが、厳しい社会情勢の中で悪戦苦闘しながらも、就職を希望するほとんどの人が内定までこぎつけています。諸先輩の血を引き継いで優秀な後輩が育っています。

最後になりましたが皆様のご活躍お祈り申し上げますとともに、今後は化学バイオ工学科となりますが、引き続きご支援をお願い致します。

（工学研究科教授・バイオ工学科主任教授）

近況報告

相澤 結



はじめまして。今年の3月をもち、化学生物系専攻前期博士課程を修了致しました相澤 結です。

私は今年度からイーピーエス(株)にて、癌領域の新薬の開発に携わっています。現在は新人研修を終え、「病院に足を運び、新薬の有効性・安全性に関するデー

タを収集する」という業務をようやく自分の力で開始した段階です。まだまだ目の前にある業務をこなすことで精一杯ですが、本学にて学んだことの有用性を日々実感しながら頑張っています。

その中でも強く実感しているのがプレゼンテーション能力です。入社後、様々な場面でプレゼンテーションを行う機会がありましたが、常に冷静に行うことが出来ました。これは、講義・研究室内で発表の機会を何度も与えて頂き、その度に先生方に丁寧にご指導頂けたおかげだと心から感謝しています。

また、バイオ工学科の先生方は常に分け隔てなく学生と接して下さいました。そのため、現在職場の上司や担当医師といった目上の方々とも円滑なコミュニケーションを取ることが出来ています。先生方はこのようなことも想定し我々と関わって下さっていたのだと思うと、全く頭が上がりません。

そして、何より社会に出て支えとなっているのが、仲間の存在です。私達の学部は少人数制のため、30人弱の気心知れた仲間と6年間もの間を一緒に過ごすことが出来ました。楽しいことも苦しいことも、互いに共有し合うことにより多くのことを乗り越えることが出来ました。今後辛いこともあるかもしれませんが、本学で出会えた貴重な仲間と支え合いながら頑張っていきたいと思っています。

最後になりましたが工学研究科の益々のご発展を祈念し、近況報告とさせていただきます。

（バイオ・平成21年卒・同23年前期博士課程修了・イーピーエス(株)）



知的材料工学科の近況

横川 善之



卒業生の皆様には、お元気でご活躍のことと存じます。

早速、近況についてご報告いたします。今春、第九期生29名が卒業しました。8名が就職（うち公務員1名）、19名が大学院（うち他大学2名）へ進学しました。留年あるいは研究生として大学に残った学生もいます。そして、29名が4回生に進級し、卒業研究に励んでいます。東日本大震災の影響で内定時期が例年より遅くなりましたが、彼らの内、7名が企業への就職が内定しました。本学大学院へ進学予定は18名です。公務員、教員志望の学生は、これから進路が決まることと思います。

次に、教員の近況をご紹介します。今年3月5日、元木信弥教授ご死去という悲しい知らせがありました。元木教授は、知的材料工学科の初めのカリキュラム編成に携わり、以来、本学科の教育、研究の中心的存在でした。ここ2年間、病気療養の合間をぬって、講義、研究指導に務められてこられました。鋭い、芸術的とも言える研究に対する姿勢、厳しくも温かい教育指導は、我々の師表とも言えるべきものでした。改めてご冥福をお祈り致します。

学科再編に伴い、一昨年“新”学科に入学した学生を、来年度、卒研究生として研究室に迎えます。知的材料工学科から、機械工学科となりましたが、機械物理系専攻の知的材料工学講座での4分野の研究体制に変わりはありません。

成熟の時代と言われて久しい一方で、“change”が世の趨勢となっているようです。大学も自らの変革が求められるかも知れませんが、「知的材料工学」講座が大阪市立大学工学部の材料教育・研究を担う役割は変わりません。卒業生の皆様には今後とも暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。（工学研究科教授・知的材料工学科主任教授）

近況報告

芝原 求己



卒業生の皆様におかれましては、各方面でご活躍のことと存じます。私は平成19年知的材料工学科卒業、平成21年機械物理系専攻前期博士課程を修了し、現在は京セラ株式会社ソーラー事業部で太陽電池の研究開発を行っています。入社動機は、推薦もありましたが、京セラの経営方針や稲盛和夫という人物に惹かれたからです。我が京セラは個性的な会社で、卒業前、先生方にご心配をお掛けしましたが、良き先輩方に出会い、入社して良かったと思っています。

私は機械工学、金属物性などを主に学んできましたが、現在では、太陽電池開発に、幸運にも、携わっております。ですので、入社当初は、太陽電池の勉強が、目下の課題でした。そしてなにより一番の課題は、京セラ社員として仕事をする上での、姿勢、考え方、仕方を習得することで、学生のときにはあまり考えていなかったことでした。今は3年目で、入社時より大きく成長できたと自負しておりますが、先輩方に比べると、まだまだ未熟であることを痛感し、四苦八苦しています。今も研究者であることの幸運を忘れることなく、また初心を忘れず、日々自分を高めていこうと考えています。

私の頃は、景気はまだ好調でしたが、現在は非常に厳しい状況で、学生の方々は非常にご苦労されています。そこで、我々が仕事に邁進することが、会社や産業を発展させ、彼らの助けにつながると信じています。

長々となりましたが、最後に、これまで材料数理研究室の先生方および大阪市立大学の先生方には、多大なるご指導、ご鞭撻を頂きましたこと、改めて御礼申し上げます。そして、皆様の益々のご活躍と、また学生方にはこれからのご成功をご祈念申し上げます。

（知材・平成19年卒、同21年前期博士課程修了・京セラ(株)）

環境都市工学科

環境都市工学科の近況

矢持 進



I期生からIX期生までの卒業生の皆さん、お元気ですか？この同窓会報を活用した環境都市工学科卒業生への近況報告も今年が最後となりました。来年度から環境都市学科の理念や活動は、都市基盤工学科のそれらと合体し、都市学科として引き継がれ、進化することになります。それに伴って、「環境都市工学科同窓会」も都市学科同窓会に加わるかどうかを決めるため、総会を開催しなければいけませんね。と言うものの卒業生の皆さんの中には学科名が無くなることに一抹の寂しさを感じる人がいるかも知れません。

環境都市工学科では、グローバルな視野に立って多面的に事象を捉えることができ、かつ社会の要請を的確に把握できる能力を持った「環境都市づくり」のプロフェッショナルを送り出すことを教育的使命と考え、水・大気（熱）・光・エネルギー・リサイクル・生態系に関わる科学技術と、システムとして機能させるための都市計画について教育を行ってきました。この考え方と方向性は極めて今日的で、輝きを持つものと今も考えています。そのため、卒業生は建設系、環境系、プラント・設備系ほか色々な方面や職種で活躍しており、これが環境都市工学科卒業生の進路の特色かと考えています。想定外でマニュアルなどないことが起こる昨今、「マルチ」に考えることが大事ですよ！

一つお知らせするのを忘れていました。ご存じかも知れませんが、環境都市工学科I期生の遠藤徹君がこの4月から正式に本学の教員として採用されました。漸く卒業生を教員メ

ンパー加えることができ、彼には「環境都市づくり」の超専門家を目指して欲しいと思っています。大阪市立大学もこの秋以降大きく変化する可能性があります。先が見えにくい世の中ですが、心を込めて、皆様とは末永いお付き合いをお願いします。（環境都市工学科教授）

近況報告

安井 裕



卒業生の皆様、お元気でしょうか？私は平成21年3月に環境都市工学科を卒業、平成23年3月に都市系専攻を修了し、現在は日立造船の大阪本社で働いています。

私は環境技術関連の開発を行う部署に所属しており、実験や設計など様々な業務に携わっています。手がける業務が幅広いため、知らない単語に出会う日々が続いていますが、毎日変化に富んでおり、楽しく過ごしています。また、出張が多く、月2、3回

のペースでどこかへ出かけています。自分一人の力でこなすには難しい仕事が多いので、社内に限らず出張先でも、何か分からないことがあった時にスムーズに聞けるよう、周囲の人に積極的に会話をしよう心がけています。

研究室の頃を思い出すと、土日学校に行ったり、時には泊ったり終電近くで帰宅したりとなかなかハードでしたが、ドタバタして楽しかったです。現在は平和で、それはそれでいいですが、「なんかハプニングが起きないかなー」と思いながら会社の休憩室から海を眺めています。

今後の目標としては、開発テーマをより多く事業化に結び付けたいと考えており、そのために柔軟な発想ができるよう、いろいろなものに興味を持って勉強したいと思っています。

社外の人と接する機会が多いので、いつか皆様と一緒に仕事ができる日を楽しみにしております。その時はよろしくお願いたします。

（環境都市・平成21年卒・同23年前期博士課程修了・日立造船株）

都島工専OBの回想

理事 東 恒雄

都島工業専門学校卒業生で工学部同窓会員でもられる12名の方の工専時代の回想が、「大阪市立大学史紀要」第4号（2011年10月31日発行）の中の特集記事『大学史の源流を訪ねて：都島工業専門学校』に掲載されました。全40ページですが、大学の許可を得てこの部分の抜刷を印刷製本し、このたび、都島工専OBの方々全員に同窓会報とともに送付いたしました。

きっかけは、2011年3月2日に、大阪市立大学大学史資料室で開催された研究会にあります。大学史資料室と恒藤記念室が主体となった都市問題研究「大阪市立大学と恒藤恭」の「大学史グループ」が、「戦時期大阪における高等工業教育の展開」と題し、大阪大学大学院経済学研究科の沢井実教授を招いて研究会を開くことになった。ついては、都島工専の卒業生の方にも参加していただき、当時の模様を語っていただけないかと主催者の先生から依頼がありました。

それを受けて私は、都島工専の機械・電気・建築・土木の各学科からそれぞれ4名の方を卒業年度も分散するように選ばせていただいて（評議員会や理事会でお見受けした方が主に

ならざるを得ませんでした）、ご連絡を差し上げました。ご予約がお有りの方、体調が今ひとつの方もおられましたが、研究会には5名の方が参加くださいました。また、研究会は欠席だが寄稿だけなら協力できるとおっしゃっていただいた方もおられました。こうして12名の方から回想記が寄せられました。

諸先輩の工専時代・戦中戦後期の力強い青春と、都島工専大学昇格運動に注がれた強い情熱に接し、深い感銘を覚えしました。研究会に参加していただいた方および回想記をお寄せくださった方に心から御礼申し上げます。

<付記>

- (1) 都島工専OBの方で、当時のご記憶を回想記の形でまとめていただける方は、それを工学部同窓会事務局宛お送り願います。折しも、工学部同窓会設立50周年記念事業の一つ、「50年史」の編纂中でもあります。長く、記録に留めておきたいと考えております。
- (2) 「大阪市立大学史紀要」は大学のホームページに掲載されています。インターネット上、「大学史の源流を訪ねて」と「都島工業専門学校」の2つのキーワードで検索すると、都島工専OBの方の回想記を閲覧できます。

（機械・昭和41年卒）

事務局年報 (2010・12～2011・11)

2010年(平成22年)

12月：会報第26号の発送完了・事務局直接配布開始(15日)

第19期第9回理事会にて50周年記念式典、次期役員の選定等を検討(16日)。

2011年(平成23年)

1月：新保・志野両監事の会計監査(19日)。

第22回評議員会開催通知を発送(20日)。

第19期第10回理事会にて第22回評議員会の議案を検討・決定(24日)。

2月：市大の学術情報総合センター文化交流室にて第22回評議員会を開催、第19期2年目(2010年度)の経過と収支決算報告及び会計監査報告、第20期初年目(2011年度)の理事の改選・事業計画・予算を承認。その後、学長、副学長、工学研究科長、友恒会副会長列席の元、50周年記念式典を開催した。引き続き記念講演会を開催し、人見宗男理事とオムロン株式会社執行役員・ものづくり革新本部長の吉川浄氏の講演を拝聴の後、50周年祝賀パーティーを催し、学長、恩師(非会員)3名、理学部同窓会長、友恒会全国支部長27名を含む95名の方々の参加があった(19日)。

大阪市立大学創立130周年記念・生誕80周年「大阪が生んだ開高健展」への支援及び参加(11～20)。

3月：平成23年度新入生への当会会則・案内・会報及び学友会入会要請書の配布を工学部事務室に依頼(7日)。卒業・修了生宛送別文書と会費納入要請書の配布を各学科理事等に依頼(16日)。工学部大講義室における「工学部・工学研究科送別式(学部卒業：268名、前博修了：184名、後博修了：9名)」に木村副会長及び理事有志が出席(24日)。

4月：新入生への学友会入会受付支援(4日)2010年度入学式が大阪市中央体育館にて挙行される。(5日)。第20期第1回理事会で、本年度の活動計画の具体化、特に工学部同窓会設立50周年記念募金の進捗状況と今後の取組についての検討(28日)。

5月：第119回市大ポート祭に協賛アドバルーンを掲揚(21,22日)。

7月：市大同窓会連絡会役員会・運営委員会で本年度同窓会費の配分案を決定(2日)。

第10回ホームカミングデー第1回実行委員会で今年度の取組を検討(8日)。第20期第2回理事会で50周年記念募金の今後の体制及びIT委員会からの提案等について検討(28日)。

8月：工学学術情報交流センターの夏季休館(12～18日)。

臨時理事会で第2回理事会の未検討事項を審議(31日)。

9月：第20期第3回理事会で後期博士課程学生奨励金の承認、会報27号の発行を決定した(28日)。

10月：会長・名誉会長・定年恩師・学科主任・卒業生に会報27号原稿の依頼状を発送(11日)。第10回ホームカミングデー案内状を理事・評議員・記念募金拠出者を中心に送付(17日)。

11月：第10回ホームカミングデー受付20名の同窓会員の参加(3日)。会報27号の初稿を開始(17日)。大阪市立大学工学部同窓会奨学金奨励学生募集開始(14～18日)。1名の応募があった。

(1)第19期第2年度(2010年1月～12月)収支決算報告

(イ)経常費収支決算表(円)

収 入		支 出	
終身会費	4,499,000	会議費	188,225
預金利息	1,800	行事費	160,865
雑収入	8,000	会報	1,558,076
前期繰越	6,780,323	会員名簿	178,500
		協賛費	357,154
		渉外費	0
		事務局費	2,881,920
		通信費	73,699
		事務費	194,203
		備品費	37,800
		次期繰越	5,658,681
合 計	11,289,123	合 計	11,289,123

(ロ)借貸対照表(2010年12月末、円)

借 方		貸 方	
振替口座	9,244	累計剰余金	6,780,323
普通預金	3,375,995	当年剰余金	△1,121,642
定期預金	53,133,556	特別基金	50,860,114
合 計	56,518,795	合 計	56,518,795

(2)第20期第1年度(2011年度1月～12月)理事会役員

会 長：宮本万功(機43)

副会長：近藤紘一(化37)、木村雅之(電51)、小林俊明(土44)、柳川重昌(物44)

理 事：人見宗男(機31)、南齋征夫(機39)、東 恒雄(機41)、笠上文男(機50)、吉田 稔(機52)、瀧山 武(機59)、栗政幸一(電31)、建部 渉(電35)、行藤三男(電36)、杉本豊三(電42)、山口南海夫(電44)、南 繁行(電45)、前谷治男(電51)、村治雅文(電62)、山田文一郎(化40)、三浦洋三(化42)、西口克彦(化43)、大嶋 寛(化49)、小河一真佐(建26)、小島 弘(建35)、貴志義昭(建41)、坂 壽二(建42)、谷口徹郎(建59)、湊勝比古(土41)、辻江賢治(土48)、日野泰雄(土50)、大島昭彦(土55)、嶋谷宏文(物38)、田守芳勝(物38)、和倉慎治(物45)、宇佐美照夫(物46)、大前秀治(物56)

監 事：高桑久茂(電46)、志野太一(物40)

(3)第20期第1年度(2011年1月～12月)事業計画

- ①会報第27号の12月上旬発行・配布。
- ②工学部・全市大行事及び事業への協力。
- ③会員相互の親睦交流の促進。
- ④特別基金の運用と有効活用。
- ⑤設立50周年記念事業。

(4)第20期第1年度経常費予算(円)

収 入		支 出	
終身会費	4,199,000	会議費	200,000
預金利息	2,000	行事費	100,000
雑収入	4,000	会報	1,500,000
前期繰越	5,658,681	会員名簿	200,000
		協賛費	300,000
		渉外費	20,000
		通信費	80,000
		事務局費	2,900,000
		備品費	200,000
		事務費	200,000
		次期繰越	4,163,681
合 計	9,863,681	合 計	9,863,681

工学部の電話番号[06-6605-(下記番号)] (2011.10.1現在)

機械工学科	電気工学科	応用化学科	建築学科	都市基盤工学科	応用物理学科
西村 伸也 2664	重川 直輝 2676	小槻 勉 2693	谷池 義人 2764	鬼頭 宏明 3050	中山 正昭 2739
伊與田浩志 2963	武智 誠次 2677	有吉 欽吾 2791	谷口 徹郎 2707	角掛 久雄 2723	金 大貴 3087
加藤 健司 2665	曾田 田人 2678	畠中 康夫 2979	木内 龍彦 2706	山口 隆司 2765	中山 弘 3088
脇本 辰郎 2965	白藤 立 2681	南 達哉 2980	谷口与史也 2709	松村 政秀 2735	福田 常男 2738
川合 忠雄 2667	大島 昭子 2680	松本 章一 2981	吉中 進 2708	大島 昭彦 2996	細田 誠 2742
今津 篤志 2662	田中 健司 2975	佐藤絵理子 2982	梅宮 典子 2710	内田 敬 3099	菜嶋 茂喜 3089
佐藤 嘉洋 2670	向井 孝彰 2792	辻 幸一 3080	横山 俊祐 2199	吉田 長裕 2731	熊谷 寛 2879
川上 洋司 2668	宮崎 大介 2877	米谷 紀嗣 2984	藤本 益美 2989	重松 孝昌 3078	小林 中 3030
瀧山 武 2672	辻本 浩章 2685	小島 誠也 2797	徳尾野 徹 2713		寺井 章 2748
高田 洋吾 2970	村治 雅文 2976		宮本 佳明 2714		杉田 歩 2904
			倉方 俊輔 2176		
情報工学科	バイオ工学科	知的材料工学科	環境都市工学科	共 通	事務室等
高橋 秀也 2679	北村 昌也 2782	澤田 吉裕 2660	日野 泰雄 2730	(応用数学)	教務担当 2653
柳原 圭雄 2773	中西 猛 2783	逢坂 勝彦 2962	嘉名 光市 2715	多羅間茂雄 2669	庶務担当 2651
鳥生 隆 2684	大嶋 寛 2700	山崎 友裕 2181	佐久間康富 2717	鈴木 広隆 2712	
中島 重義 2683	五十嵐幸一 2699	大島 信生 2961	中尾 正喜 2993	(機械工作室)	
ティティズイン 3096	長崎 健 2696	A・ビノグラドフ 3049	西岡 真稔 2718	吉岡 真弥 2967	
田窪 朋仁 2778	東 秀紀 2168	兼子 佳久 2179	鍋島美奈子 2719		
上野 敦志 3081	田辺 利住 3094	横川 善之 2743	矢持 進 2175		
岡 育生 2779	立花 亮 2702	中村 篤智 2741	遠藤 徹 2732		
阿多 信吾 2191	東 雅之 3092	岸田 逸平 2194	貫上 佳則 2728		
原 晋介 2795	立花 太郎 2167		水谷 聡 2727		
杉山 久佳 2796					
辻岡 哲夫 2772					

第23回評議員会のお知らせ

評議員各位には当会の活動に種々ご協力頂き誠に有難うございます。

さて、標記の第23回評議員会を下記の通り開催致します。万障お繰り合わせの上ご出席下さいませようお願い申し上げます。

記

日 時：2012年(平成24年)3月3日(土)
午後1時00分～2時00分
会 場：大阪市立大学学術情報総合センター
1階 文化交流室

なお、ご欠席の場合の委任状(後日送付)を、2012年2月29日までに必ずご発送ください。

編集後記

同窓会だより27号をお届けいたします。自然災害絶えない今年、特に3.11東日本大震災の被災者にはいかなる慰めの言葉もむなし。悪いことにこの震災は福島原発事故による放射能汚染をもたらした。寺田寅彦の言葉に「国家を脅かす敵として天災ほど恐ろしい敵はない」というのがある。その言外には天災に備えてその被害を最小限にとどめよとの意が含まれる。過去三陸地方を襲った幾多の地震を重く受けとめ、高台への移住を進めていけば、犠牲者を減らせたと思われるが、想定外津波でやむなしと片付ける風潮、メルトダウンは起きないとの思い上がりには自然に対する畏敬の念がない。一つの救いは震災後、「絆」という言葉をよく耳にするようになった。このたよりが会員の絆を深める一助になることを願っている。(近藤 紘一)

編集委員

○近藤 紘一(応化：昭和37年卒) 人見 宗男(機械：昭和31年卒)
瀧山 武(機械：昭和59年卒) 山田文一郎(応化：昭和40年修)
大嶋 寛(応化：昭和49年卒) 村治 雅文(電気：昭和62年卒)
谷口 徹郎(建築：昭和59年卒) 大島 昭彦(土木：昭和55年卒)
田守 芳勝(応物：昭和38年卒) (○印：委員長)

“工学部同窓会の集い”

—第9回キャンパス交流会—

来春の“工学部同窓会の集い”は第9回キャンパス交流会として、下記の通り開催します。

講演会では、本年3月11日の東日本大地震による津波・液状化被害を調査された、大阪市立大学大学院工学研究科の都市系専攻教授重松孝昌氏（土木・昭和61年卒）と、都市系専攻教授大島昭彦氏（土木・昭和55年卒）のお二人をお願いいたしました。

また、懇親会は本館専門食堂で開催し、現・旧の恩師の方々にもご臨席頂くようお願いする予定です。同期生や職域での同窓生をお誘い合わせの上、ご出席下さい。ミニ・クラス会や、ミニ・職域同窓会を兼ねてのご参加も大歓迎で、年々増えております。

記

■日 時：2012年3月3日（土曜日）午後2時30分～午後6時00分

■講演会：時間＝午後2時30分～午後4時20分

会場＝大阪市立大学学術情報総合センター（1階）文化交流室

1) “津波の発生メカニズム・特徴、被害と対策”

大阪市立大学大学院 工学研究科教授 重松 孝昌 氏

2) “液状化の発生メカニズム・特徴、被害と対策”

大阪市立大学大学院 工学研究科教授 大島 昭彦 氏

■懇親会：時間＝午後4時30分～午後6時00分

会場＝本館専門食堂

会費＝3,000円（当日、会場にて徴収）

【申込方法】 1)連絡事項：①ご氏名、②学科（専攻）名、③ご卒業（修了）年、
④住所（連絡先）、⑤講演会の出欠、⑥懇親会の出欠
2)方 法：ハガキ、FAX またはe-mail
3)期 日：2012年2月24日（金曜日）

【申 込 先】：大阪市立大学工学部同窓会 事務局
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
FAX：06-6605-2769
e-mail：dousoukai@office.eng.osaka-cu.ac.jp